令和７年度東京ヘリポート
不法侵入対応及びハイジャック防止訓練



令和８年２月４日、東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練を実施しました。
訓練は２部制で、第１部では、関係機関への通報等の初動対応を確認しました。
第２部では、警備員の出動や警察による犯人確保までの流れを確認しました。
また、訓練終了後には、警視庁東京湾岸警察署員に刺又の講習を行っていただきました。

概要

日時　第１部通報訓練　令和８年２月４日　13時30分から13時40分まで
　　第２部総合訓練　令和８年２月４日　15時00分から16時00分まで
場所　東京都東京ヘリポート
主催　東京都東京港管理事務所
協力　警視庁東京湾岸警察署、アカギヘリコプター
想定　民家に強盗した後の犯人が、遊覧客に紛れ込み待合室から制限区域内に侵入。
　　刃物を取り出し、逃走用のヘリを用意するよう駐機していた機体の乗組員を脅す。
　　駆けつけた警備員と対峙。その後、警察が到着し犯人を確保。

第１部通報訓練





- 管制塔から事件発生の報告を受けて滑走路を閉鎖
- 中央拡声装置(構内放送用のスピーカー)でヘリポート内に不法侵入事案発生を周知
- 関係機関等へ事件発生の通報
- 警備員へ出動指示

第２部総合訓練

- 刃物を持った不審者が乗組員を脅す
- 警備員は刺又を持って出動
- 警備員は犯人の要求を聞き、警察が到着するまでの時間を稼ぐ
- 警察が到着
- 犯人を確保





刺又講習

訓練終了後の刺又講習では、湾岸警察署の講師から刺又の扱い方について教えていただきました。
訓練の見学者も２人１組になって、刺又の練習を行いました。







講評

訓練終了後には、湾岸警察署の加藤警備課長と東京港管理事務所の菊田所長からそれぞれ講評をいただきました。

湾岸警察署
加藤警備課長からの講評



東京ヘリポートは東京都のみならず、国にとっても極めて重要な施設であり、その安全・安心の確保は警察をはじめ関係機関にとって最重要の治安課題である。

湾岸警察署では関係機関と連携し、治安確保に取り組んでいる。

今回の訓練は数ある想定の一つにすぎず、実際の事案は想定外であることがほとんどである。だからこそ、本訓練を契機に、普段から想定外も含めたイメージトレーニングを重ね、訓練を継続していくことが重要である。

本日の訓練は、有事に備える認識を深めるうえで非常に意義深いものであった。

東京港管理事務所
菊田所長からの講評



本日の訓練を通じ、緊急時における各自の役割や必要な対応を改めて確認するとともに、警察や消防など関係機関へ迅速に連絡することの重要性を再認識する機会となった。

また、湾岸警察署加藤警備課長の訓示にもあったとおり、非常時を具体的にイメージすることの大切さを改めて認識した。

刺又訓練では、制圧を目的とするのではなく、警察が到着するまでの時間を可能な範囲で確保することが自らの役割であることを確認できた。

本訓練により、非常事態発生時における各自の役割や基本的な対応について、理解が一層深まったといえる。

今後は、本訓練で得た知識や経験を各社に持ち帰り共有し、構内の関係者がいざという時にも安全かつ適切に対応できるよう、取り組んでいただきたい。

（担当）東京港管理事務所港務課ヘリポート担当
03-3522-2681